

平成23年度
第3回 温海地域審議会
会議録（概要）

期日：平成23年9月22日（木）

場所：鶴岡市温海庁舎6階大会議室

平成23年度 第3回温海地域審議会 会議録

○期 日 平成23年9月22日(木) 午後1時30分～

○場 所 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室

○出席委員 奥井厚委員、佐藤重夫委員、本間澄男委員、柴田実委員、橋本忠志委員、五十嵐孝昭委員、佐々木真人委員、佐藤美代子委員、榎本五郎治委員、五十嵐英夫委員、斎藤徹委員

(11名)

○欠席委員 本間満委員、佐藤隆委員、佐藤容介委員、五十嵐淳子委員、剣持孝一委員、齋藤守峰委員、五十嵐良介委員、五十嵐安貴委員、鈴木義一委員

(9名)

○市側出席者

<温海庁舎> 支所長 伊藤彦市
総務課長 本間節子、市民福祉課長 本間敏廣、市民福祉課主幹 富樫達男
産業課長 五十嵐勇一、観光商工主幹 粕谷一豊
建設環境課長 庄司又兵衛、教育主幹 石塚みさ
総務課総務地域振興主査 五十嵐浩一、総務課調整主任 高橋亨
総務課調整主任 佐藤学

○次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 協 議
 - (1) 行政改革における地域庁舎の見直しについて
 - (2) テーマに基づく事業計画(案)について
 - (3) その他
4. 閉 会

3. 協議

○**奥井会長** 協議1の行政改革における地域庁舎の見直しについて説明をお願いします。

「行政改革における地域庁舎の見直しについて」 説明者・・・伊藤支所長

○**奥井会長** ただいま説明があったわけですが、行政改革についてみなさんのご意見ありましたらお願いします。ざっくばらんに何でも結構です。

○**橋本忠志委員** 公共施設の管理を民間に委託するというので、当面の主な見直し事項は今後の財政の関係上での見直しなのか、あるいはスピード社会に対応した組織の見直しでしょうか。どの辺に重点においての見直しなのでしょう。行政事務を民間に委託する場合があるわけですが、民間に委託することが主な行財政改革なのですか。

○**伊藤支所長** 今回の件については2つあったと思います。公共施設の民間委託については、例えば極端なことを言えば、温海管内の集会施設は補助事業で建てたものが13くらいありますが、指定管理委託料ゼロの指定管理ということで、その集落ですべて管理ということでやってきました。今回の行革においては特定の団体、特定の集落、広域ではなく特定の人たちしか使われないような施設については基本的にその人たちに管理してもらおうという方向で進んでおります。例えばコミュニティセンターですと小学校区単位ということでかなり広い範囲、旧温海町の世帯数でいくと大山コミセン一つが温海よりも大きいという感じになりますので、温海の集会施設については特定の集落、他にも使いますが基本的に一つの集落で使っている、そんな感じで、現在民間委託というよりも譲渡、貸付の方向で進んでおります。

また組織機構については、例えば教育とか福祉については旧市町村のサービス内容に様々な差異があります。それを一体化することによって平準化は当然しなければなりませんし、そのための見直し、ただコミュニティとか産業についてはその地域独特のものがああります。平準化しなければならないものについては集約して、その地域の特性を活かすものについてはそちらの方に力を入れていく形で組織機構の見直しが図られます。

○**佐藤重夫委員** 行財政改革における地域庁舎の見直しということで説明があったわけですが、広域的という点について、例えば納税部門などについては温海地域は由良の方まで担当も、ということでの話もありました。産業課のことについてはですけども、例えば我々林業関係の方を見ると市内の方でも温海、朝日が主体となったような形で、それが重点地域になっての庁舎の形になるのかなということ、温海の場合は水産のほうもあるわけですけども、その辺についても温海は具体的な中で鶴岡市全体の水産を担当する産業課として位置付けをするというそういう形の体制になるのですか。

○**伊藤支所長** 鶴岡市全体を見たときに水産業があるのは旧温海町と旧鶴岡市だけ、林業につい

ては、山はあるけれどもほとんど林業と名の付かない地域もあるわけですし、平野部の米とか畑中心の部分とか、地域の産業に見合った職員配置となると思います。

○**斎藤徹委員** 説明の中でも総務課に教育課から業務の一部を移管するとともに、コミュニティ担当の一元化、この辺については以前の説明でも把握しているところですが、今後少子高齢化も含めて、当地域は自治公民館制度を今後進めていく中で、やはり活力とといいますか、例えば地区担当主事等々今後どのような形になるのか、なくなっていくのか、その辺を地区公民館制度の 27 年度の見直しということもあったわけですし、今後庁舎のほうではどのような形で考えているのか少しお伺いしたいと思います。

○**伊藤支所長** 地区公民館についての見直しについては 27 年度ということで、この部分については仮に地区公民館が温海の場合施設がないわけですので、仮に今の体制が変わったとしても特に自治公民館という温海独特の自治公民館を主体とした地域づくりについては弊害のないような形で考えていきたい。どこまでも住民自治組織を拠点とした形で今までも我々も一緒になって行政を進めてきた関係もありますし、その部分については仮に地区公民館がなくなって地区主事がいなくなったとしても、例えば集落担当という形で置くとか、そのような形で進めていきたい。やはり自治公民館はどこまでも当分は続けていくだろうし、我々もそれに両輪のごとく行政を進めていきたいと考えておりますのでそんな形でいきたいと思います。

○**斎藤徹委員** 説明の中で分かりましたが、当湯温海地区では隣組の編成替えとといいますか、どうしても隣組の活動の中で、例えば 10 世帯、15 世帯という部分が限界集落というわけではありませんがお年寄りばかりになって、かなり自治意識とかチラシ配り等についても困難になってきている状況下になっています。そういうことで今見直しを図っているわけですが、やはり今後行政も含めてですが、少子高齢化の対策、高齢化率 40% 近くになるのももうまもなくかなと思っていますし、その辺を含めて、地域コミュニティの一元化の部分でも人員配置等考えるべきで、私ども地域だけでなく当温海地区の部分で考えていかなければならないと思っている次第です。

○**橋本忠志委員** 斎藤委員の質問に関連しますが、私早田ですけれども、自治会の 26 年度の予算で補助金とかいろんなものでカットされる可能性があります。福祉の関係で意見を述べさせていただきますと、早田地区では今斎藤委員が言うように、自治公民館が隣組単位でコミュニティ活動をやり、集落 151 戸全体で一日研修をやって、それから総会に臨むというそういうスタイルで行っています。福祉の関係、隣組の急な対応、あるいは高齢化社会の話し合いが出来る場などいろんな形で担っていくということでございます。いろんな形でミニデイの方、介護サービスの方がいますけれども、公民館の役割が福祉については大であるということをお伝えして、26 年度にいろんな予算、補助金のカットなどが掲げてありますけれども、福祉の面で自治公民館は大きな貢献、役割を果たしていることを念頭においていただきたいと思いますので要望いたし

ます。

○伊藤支所長 要望ということで受け止めさせていただきます。

○佐々木真人委員 行革の見直しというと端的に言って人員の削減ということが目に見えてくるわけですが、おおよそのところ、150名近い昔の温海町時代からどんどん減って、今庁舎だけでも100人を割っている状況で、どのくらいまでを想定しているのか、財政やらなにやらもろもろからきて行革、行革とくるわけですから、人的なところ、どのくらいまで見ているのか分かれば教えていただきたい。

○伊藤支所長 平成22年から28年まで一般行政部門と教育・消防関係ありますけれどもトータル今後6年間で180名、ただ合併当時には平成17年ですが、300名ということで既に減っている部分もありますので、温海庁舎では合併当初132名の職員がおりましたが、今年は84名ということで減っております。ただ今後は目標としては6年間で180名ほど、これは類似団体との比較になりますけれども、そんな形で提案されております。

○奥井会長 その他なければ終わりますが。ないようですが、出された質問・意見についてはそのまま本所のほうに報告されるということですが、温海地域が今までより悪くならないように、サービスが低下しないようにお願いします。

これで行政改革における地域庁舎の見直しについての協議を終わります。

～ 分散会のまとめ～

○第1分散会 6階大会議室

出席委員 奥井厚委員、橋本忠志委員、五十嵐孝昭委員、佐々木真人委員、佐藤美代子委員、榎本五郎治委員、斎藤徹委員（7名）

事務局 総務地域振興主査 五十嵐浩一、総務課調整主任 佐藤学

○第2分散会 501会議室

出席委員 佐藤重夫委員、本間澄男委員、柴田実委員、五十嵐英夫委員（4名）

事務局 総務課長 本間節子、総務課調整主任 高橋亨

1 地域グループのネットワーク化について

○事業名：あつみイベントバンク運営事業

- ・ 大変良い企画であり、是非実現してもらいたい。
- ・ 課題はどこが中心となっておこうかと、コーディネーターの人材育成である。
- ・ この事業は観光協会の仕事ではないかと思われるがどうか。

- ・ 観光協会の機能が低下しており、財政難でもあることからとても取り組み出来る状態ではない。
- ・ コーディネーターに市職員の出向は、退職者の活用はどうか。

2 日沿道の利活用について

○ 温海地域ドライブコース作成・PR事業

- ・ 周遊マップは必要と思われる。是非作成してほしい。
- ・ 地域内には湯見ヶ滝など一般的に知られていない素晴らしいところがまだまだあるので紹介してほしい。
- ・ 高速道をおりた観光客にマップをどこで配布するか検討が必要だ。

○ 観光案内板整備事業

- ・ 大きな看板は既に予算化されており、23年度中に設置されることになっている。
- ・ 看板設置についてはどこに設置すれば有効なのか十分な検討が必要。

○ 天魄山環境整備事業

- ・ 天魄山からの眺望は海、夜景、星空、佐渡など素晴らしいものがある。この観光資源を有効に活用していきたい。
- ・ 登山道（市道）については、乗用車でも樹木がぶつかる状態であり、維持管理を徹底する。
- ・ せめて駐車場から海岸線が見えるくらいの整備が必要である。
- ・ 観光客がちょっと時間があるときに訪れる場所としてちょうど良い。
- ・ 県の環境税や森林整備事業、緊急雇用促進事業などを利用した整備が可能ではないか。
- ・ 将来的には天魄山にとどまらず、西山林道～一霞線までの道路整備が出来れば素晴らしい山岳道路となり、観光資源として有効である。是非総合的な計画をつくってもらいたい。

○ 温和の森再整備事業

- ・ 温和の森は、樹木札を設置する、水の流れを作る。遊歩道の整備などを行う。
- ・ 地元の人もほとんどその存在を知らない状況であり、中学校など地元住民の利用促進を図る。
- ・ グラウンドゴルフ場の整備については、温泉への宿泊も含めて効果が見込まれる。また友愛の森の施設も併せて有効利用すべき。

3 農林水産業の後継者づくり

○ サラリーマン第1次産業化プロジェクト

- ・ ターゲットは地元住民なのか、U・Iターン者なのか。地元住民だけでは厳しい面が

あるのでは。

- ・ 漁業体験など小さい頃から地域のことについて教育することが必要だが、子供の磯遊び、貝取りまで規制している状況で後継者育成はありえない。法的な部分も含めて環境整備が必要。
- ・ 間伐材の商品券による買取りによる波及効果も期待できるが、まずは実績をつくってから。
- ・ 温海は良い竹林が多いので、孟宗、カラ竹などを活用した事業展開を。
- ・ 荒廃した農地、山林が災害を招く結果となっている。防災対策も含めて遊休農地、山林の有効活用が必要であるが、個人同士の貸し借りだとトラブルが発生しやすいので、市がうまくコントロールできる仕組みを。

4 その他参考意見

○しゃりんについて

- ・ 駐車場が狭い、遊覧へりなどもやっている関係？北側への拡大は。
- ・ 能舞台、遊具等設置されているが、整備されていない。
- ・ 県外のものの販売をを制限している？オープンな施設にしないと。
- ・ 交通事故が多発している。
- ・ 旅館とのタイアップが必要ではないか。

○猿対策について

- ・ 何の作物を作っても猿の被害が多く、生産意欲がなくなっている状況がある。逆に山や農地に人が入らないことが猿の増えた原因になっている。

○歴史ロマンを活用したまちづくり

- ・ 温海地域には義経や都岐沙羅柵、戊辰戦争など歴史ロマンを語るに十分な話題がある。これを目当てに訪れる人も少なからずいるので、うまく活用してはどうか。